

(平成27年度事業) 沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査 ー底びき網調査により採集した魚類の基礎生態ー

漁業資源課 山下 慶太郎

1 背景・目的

当场では平成21年度から27年度まで、土佐湾沿岸における底魚資源の分布状況を調査し、報告してきた(大河・山下 2017)。当調査において採集した魚類のうち、主な漁獲対象種の生物学的データを再整理したので、新たに報告する。

2 方法

平成26年度及び27年度の調査で採集した魚類のうち、漁獲対象種については1曳網当たり最大30個体の体長、体重、生殖腺重量等を測定した。2年間の測定結果を整理し、漁獲対象魚類の生殖腺熟度指数(以下「GSI」)の上昇時期や水深別体長組成等を明らかにした。

3 結果

測定結果のうち、底びき網漁業の漁獲対象種のうち、周年にわたり採集できた魚種の結果を表1に示した。概ねどの魚種でも、水深が深くなるほど平均標準体長が大きくなる傾向にあった。

沖合底びき網漁業の重要資源であるアオメエソ及びニギスはほぼ周年採集され、アオメエソは水深300m、ニギスは水深150mの1曳網当たり採集尾数(以下「CPUE」)が最も多かった。

小型底びき網漁業の重要資源であるヒメジ及びマエソは周年採集され、両種とも水深50mのCPUEが最も多かった。両種のGSIは春から秋に上昇し、ヒメジは5月、マエソは7月が最も高い値を示した。

カナガシラ類のうち、ほぼ周年採集できた4種の水深別のCPUEは、トゲカナガシラは70m、オニカナガシラは120m、ソコカナガシラは150m、カナドは200mが最も多かった。GSIは3～4月の春季に高い傾向が見られた。

小型底びき網で漁獲されるオキヒイラギは水深50mのCPUEが最も多かった。GSIは6～8月の夏季に高い傾向が見られた。

キダイは水深90m及び100mのCPUEが多く、GSIは5～6月と9～10月に上昇した。また、性比は標準体長20cmまでは雌の割合が雄の4倍以上あったが、20cmを超えると雄と雌の割合がほぼ同じとなった。

ヒメコダイは水深120mのCPUEが多く、GSIは夏季に高い傾向が見られた。

ユメカサゴは水深300mのCPUEが多く、GSIは7～8月と11月に高い傾向が見られた。

ヨメゴチは水深70mのCPUEが多く、GSIは8～10月に高い傾向が見られた。

4 考察

アオメエソ及びニギスは、両種とも生殖腺の発達した個体は確認されなかったことから、調査した300mより深い水深か土佐湾外で産卵している可能性が高い。アオメエソについては、他県の漁獲物でもほとんどが未成熟個体で、産卵時期や成熟年齢等は解明されていない。ニギスについては、土佐湾での沖合底びき網漁業による漁獲量に比べて、調査での採集量が少なく小型個体の割合が多かったため、漁具選択性が働いた可能性がある。両種とも5cm以下の小型個体が多く採集されたことから、土佐湾は両種の幼魚にとって重要な成育場であると考えられる。

5 参考文献

大河俊之・山下慶太郎(2017) 沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査-底びき網調査-。平成27年度高知県水産試験場事業報告書, 113, 55-60。

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次(2007) : アオメエソ。東シナ海・黄海の魚類誌 286-289。

